

地域展開で目指す姿「地域の子どもたちは、学校と地域で育てる」

中学校部活動の現状

- やりたい部活動がない
- 各部の人数が減少傾向
- 専門的なことが教えてもらえない部活が多い

目指す姿

- やりたい部活動がある
- 多くの仲間と活動できる
- 専門的な指導を受けることができる

少子化の中でも、子どもたちが将来にわたリスポーツや文化芸術活動に親しめる環境をつくることが目標です。

そのため、スローガンとして「地域の子どもたちは学校と地域で育てる」を掲げています。

令和6・7年度の主な取り組み

令和6年度

- 4月 地域展開の取り組みを開始
- 12月 意識調査を実施 1

令和7年度

- 4月 コーディネーターを採用
- 10月 ワークショップを開催 2
- 11月 吹奏楽部の合同練習会
- 1月 ソフトテニス部の合同練習会
- 2月 新入生説明会で概要などを説明

1 小学5・6年生、中学1・2年生とそれぞれの保護者の他、教職員を対象に実施

2 全部活動の代表生徒による「これからの部活動を考えるワークショップ」を開催



【ワークショップ】有意義な意見交換の場となりました



【合同練習会】より専門的な指導を受ける機会となりました

地域展開に必要な3つの要素

人

- ・指導者の確保や送迎方法の検討
- ・地域の理解を得る など

指導者のカテゴリ

- 1 主たる指導者(指導責任者)
- 2 サブ的指導者(コーチ的立場)
- 3 見守りなどの活動支援的指導者

合計約120人が必要

※市内全中学校の部活動が、休日に地域展開した場合

場所

- ・活動場所の確保
- ・施設の優先利用 など

費用

- ・指導費や参加費の設定
- ・保険の選定や加入 など



菊池南中学校 吹奏楽部



七城中学校 女子ソフトテニス部

中学校部活動の休日地域展開

学校と地域で支える部活動

市では、令和10年度からの全中学校部活動の休日地域展開に向け、教育委員会が一体となって、新たな体制づくりを進めています。子どもたちの活動環境を守るため、今なぜ地域展開が必要なのか、令和6年度から始まった取り組みをお伝えします。

【問い合わせ先】社会体育課 ☎0968(25)7234

5月に発足した組織では、月2回の「作業部会」が情報を整理して、具体策を提案し、月1回の「準備委員会」で方向性を決めます。さらに、協議・決定した内容を教育委員会へ諮り、さまざまな事項を決めていく予定です。

これからの、菊池の中学生が安心して新たな「地域クラブ活動」に参加できるよう進めていきます。

地域クラブ活動への移行に向けて

市では、全ての中学校部活動で、令和10年度から休日の地域展開を目標としています。教育委員会では、4課(学校教育課・社会体育課・文化課・生涯学習課)が一体となり、地域展開に向けて協議を行う組織を立ち上げました。教育委員会全体で地域展開の検討を進めている県内の自治体は少なく、見本ともなる取り組みとなります。

4課一体で進める部活動の地域展開

市では、全ての中学校部活動で、令和10年度から休日の地域展開を目標としています。教育委員会では、4課(学校教育課・社会体育課・文化課・生涯学習課)が一体となり、地域展開に向けて協議を行う組織を立ち上げました。

中学校の部活動はなくなりません

「中学校部活動の地域展開」という言葉を聞いたことがありますか。聞いたことがある人は、その内容について、どのくらい知っていますか。中には「中学校の部活動がなくなるのでは…」と思っている人も多いのではないのでしょうか。

部活動の地域展開ってなんだろう?

部活動の地域展開とは、平日の部活動は今まで通り継続し、休日の部活動を学校ではなく、地域が責任を持って見守る体制を構築していく取り組みのことです。市では、部活動の教育的意義の継承・発展を大切にしながら、地域展開を進めていきます。学校部活動が地域展開した後の「地域クラブ活動」でも、生徒が心と体の成長を感じ、地域展開して良かったと思えるような体制づくりを目指しています。

なぜ地域展開が必要なの? ～3つの理由～

理由③ 教員の働き方改革

これまでの部活動は、中学校の教員の献身的な指導で成り立ってきました。

しかし、教員は放課後や休日の指導で、休みが取れない、自分の専門種目でない部活動や希望していない部活動を担当するなど、心身への負担が蓄積されています。

このままでは本来の業務に専念できない状況になってしまいます。

理由② ニーズの多様化

中学入学前から活動しているクラブを選択したり、入りたい部活動がなかったりなど、部活動に対するニーズが多様化しています。市の部活動入部率は、今年度55.5%まで低下しています。

部活動入部率の学校間格差も気になる状況です。今年度は、入部率の高い中学校は65.3%、低い中学校は41.8%となっています。

理由① 少子化

県では、中学生の数が令和4年度から10年間で、6727人減少すると想定しています。このような傾向により、同一校でのチーム編成が困難になったり、廃部となったりしています。

■県の中学生の数の推移

令和4年度	4万8990人	6727人
令和14年度	4万2263人	減少

地域展開後も人生の糧となる経験を

私たちが、学生時代に部活動を通して得られた自己肯定感や達成感、連帯感を、今の中学生にも味わってほしいと願っています。その経験はこれからの人生をより豊かにするために、欠かせないものになるからです。

そのためにも、さまざまな状況で満足できる活動が保障されていない現状を、地域展開で望ましい姿に変えていく必要があります。

菊池の子どもたちが将来にわたって、スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を保障するためにも、地域展開に向けた取り組みは、とても重要な時期を迎えています。

市民の皆さんには、中学校部活動の地域展開の必要性や乗り越えるべき課題、今後の方向性などについて、ご理解いただき、さまざまな立場からの支援と協力をよろしくお願いします。



社会体育課
部活動地域展開コーディネーター
赤星誠司さん